

2010年度決算発表

【第67期】

2011年5月13日



住友軽金属工業株式会社

目次

1. 連結決算概要
2. 単体決算概要
3. 今期業績予想
4. ARCO買収概要
5. 第四次中期経営計画の進捗状況
(SUMIKEI VISION 2012)



1. 連結決算概要

① 連結子会社

連結対象 **23社** ⇨ **25社**

アルミ圧延品	住軽アルミ箔 SLMオーストラリア 住軽テクノ 住軽テクノ名古屋 住軽テクノ安城 住軽テクノ群馬 住軽テクノ恵那 スミケイテクノチェコ スミケイテクノタイ
--------	---

伸銅品	東洋フイツテング スミケイマレーシア 住軽広州 スミケイ銅管販売
-----	---

加工品・関連事業	日本アルミ 日本アルミ滋賀製造所 住軽エンジニアリング 岩井金属 岩井アメリカ 岩井メキシコ スミケイ運輸 アルミセンター
----------	--

営業・流通	住軽商事 住軽商タイ 上海住軽商 泉メタル
-------	--------------------------------

※各セグメントに配賦

持分法適用会社	住軽日軽エンジニアリング 住軽パッケージ 住軽アルパック
---------	------------------------------------

②当期のポイント(連結)

震災影響: 操業への影響無し
「被災地の皆様には一日も早い復興を心より祈念致します」

1. 経常利益 : 115億円 (前年度比3.8倍)

需要は堅調に推移。経常利益、当期純利益とも大幅好転。

2. 構造改革効果の取込み : 27億円

アルミ加工品事業の再編(2009年10月)

アルミ押出素材・部材加工事業の再編(2010年4月)

3. コスト削減(継続) : 14億円

4. 成長戦略の遂行

国内戦略投資 : 新冷間圧延機本格稼働

チタン管設備増設

住軽アルミ箔 リチウムイオン電池箔用スリッター増設

海外戦略 : スミケイテクノタイは順調に建設中

住軽商昆山 板加工設備増設中

③ セグメント別売上高・営業利益 (連結)

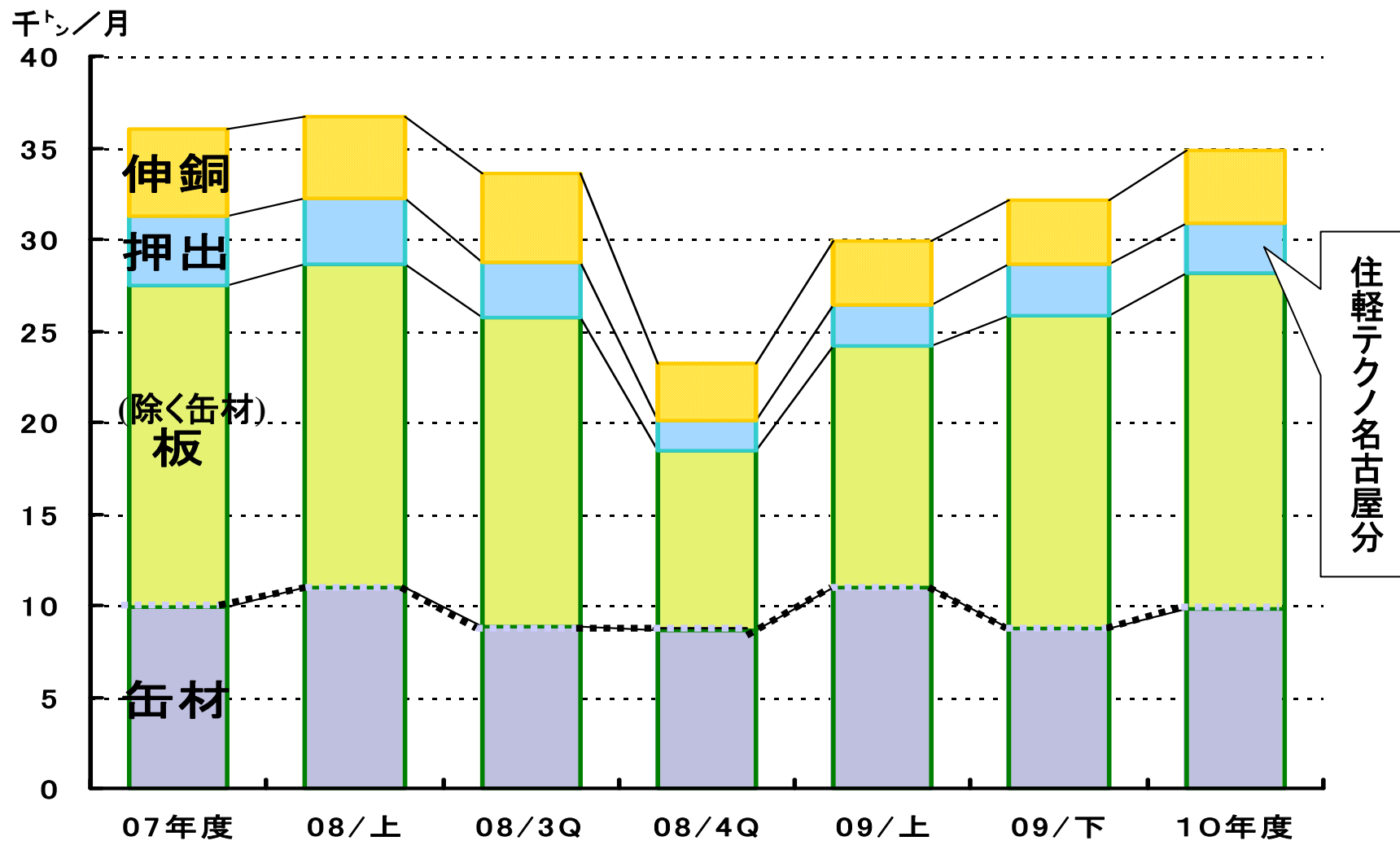
(単位: 億円)

	09年度		10年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	1539	84	1744	177	205	93
伸銅品	402	△2	450	3	48	5
加工品・関連事業	394	△3	401	5	7	8
調整	-	△27	-	△29	-	△2
合計	2335	52	2595	156	260	104

※売上高対前年同期増減事由

数量増加	地金価格差	合計
207	53	260

④品種別販売量推移(単体)



⑤ 連結損益

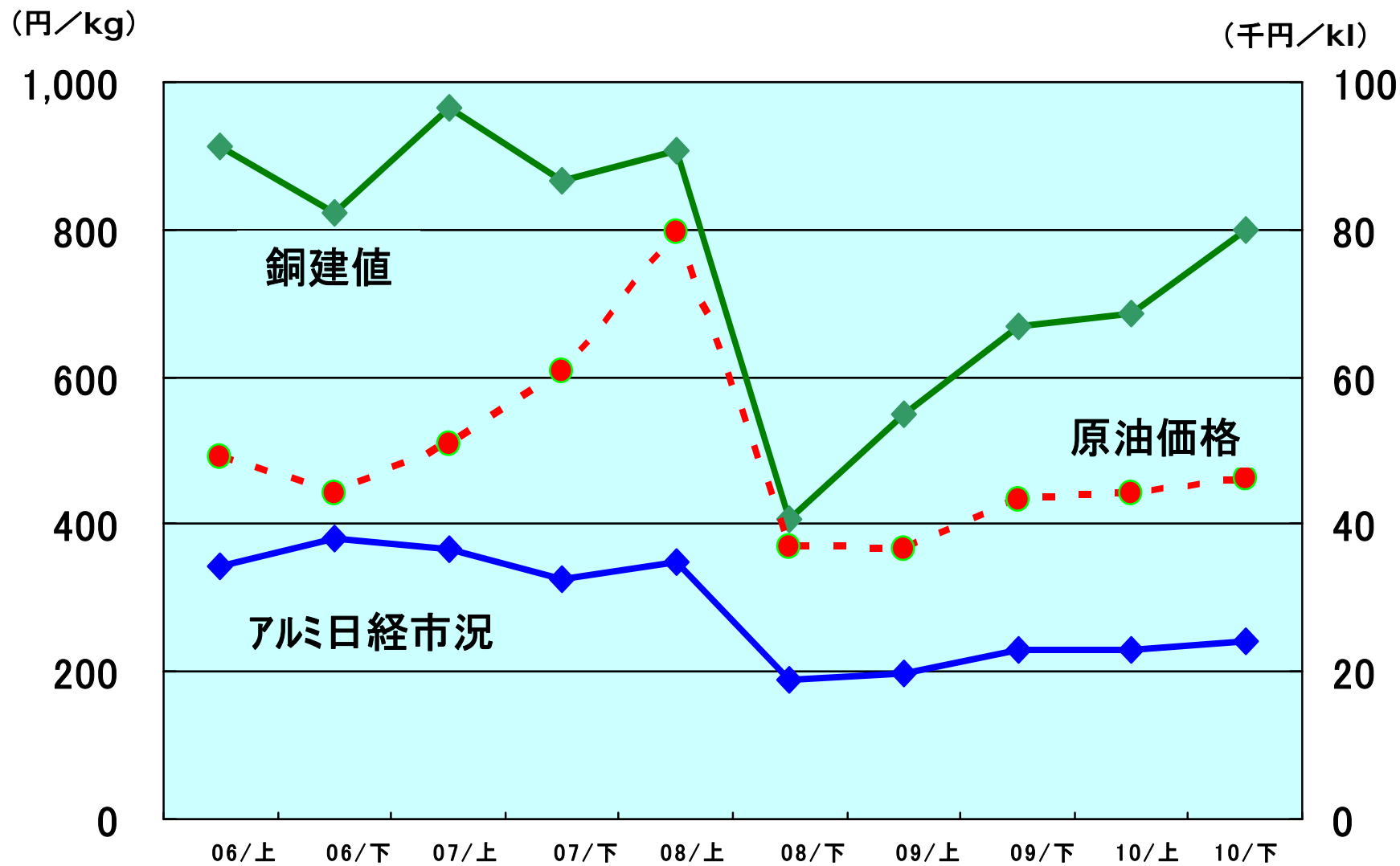
(単位：億円)

連 結	09年度	10年度	増 減	伸率%
売 上 高	2335	2595	260	11.1
営 業 利 益	52	156	105	3.0倍
経 常 利 益	30	115	85	3.8倍
当 期 純 利 益	△65	72	137	—
設 備 投 資	57	46	△11	
減 価 償 却 費	99	95	△4	

* 特別損益内訳(主要科目)

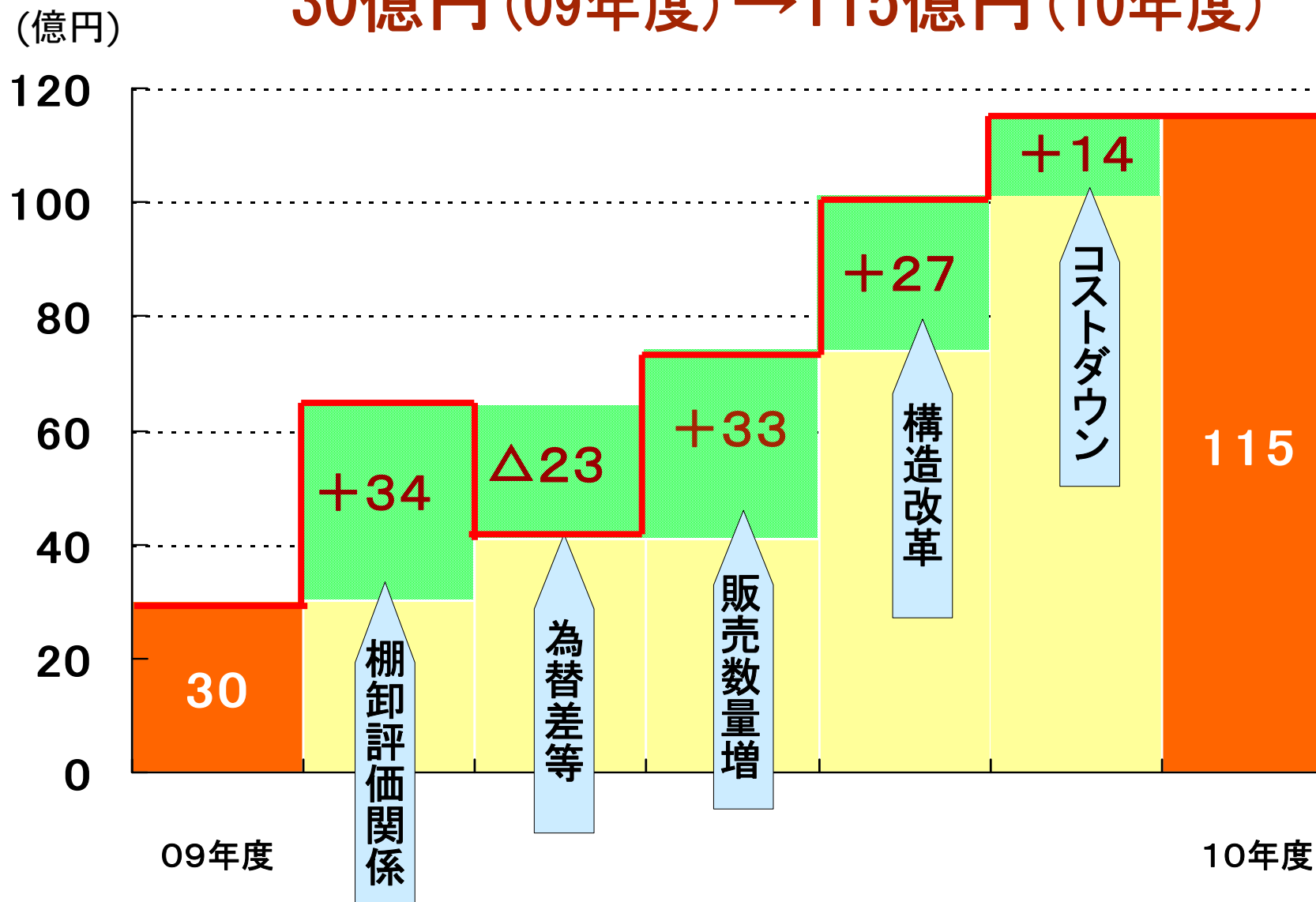
	09年度	10年度
加工品事業再編損	△21	—
押出事業再編損	△62	—
資産除去債務	—	△12
減 損 損 失	—	△11

⑥ アルミ・銅地金及び原油価格推移



⑦ 連結経常損益分析

30億円 (09年度) → 115億円 (10年度)



⑧ 連結B/S主要項目

(単位：億円)

連結	10年3月末	11年3月末	増減
株主資本	318	390	72
その他の 包括利益累計額他	△32	△37	△5
純資産	286	353	67
純資産比率	9.2%	11.5%	2.3%
総資産	3099	3066	△32
有利子負債	1792	1652	△140



2. 单体概要

① セグメント別売上高(単体)

(単位:千ト、億円)

	09年度		10年度		増減	
	数量	金額	数量	金額	数量 伸率%	金額
アルミ板	300	1124	338	1255	38 12.7%	131
アルミ押出	31	189	—	—	△31	△189
その他	—	52	—	246	—	194
アルミ圧延品計	—	1365	—	1501	—	136
伸銅品	42	373	48	435	6 14.1%	62
合計	—	1738	—	1936	—	198
住軽テクノ名古屋	—	—	33	197		

※売上高対前期増減事由

数量増加	地金価格差	合計
143	55	198

② 損益

(単位: 億円)

	09年度	10年度	増減	伸率%
売上高	1738	1936	198	11.3
営業利益	43	113	70	2.6倍
経常利益	12	83	71	6.7倍
当期純利益	△116	64	180	—
設備投資	34	27	△7	
減価償却費	79	73	△6	

* 特別損益内訳(主要科目)

	09年度	10年度
加工品事業再編損	△77	—
押出事業再編損	△62	—
資産除去債務	—	△10
減損損失	—	△10



3. 今期業績予想

① 今期業績見通しのポイント

震災影響により、先行きは不透明であるが
第四次中期経営計画(SV12)達成に邁進

1. 経常利益：125億円、当期純利益：110億円

対前期 経常利益 9% 増加
当期純利益 53% 増加

2. 構造改革推進

押出素材／部材事業再編（継続）
伸銅事業分社化（2011年10月予定）

3. 成長戦略の遂行

住軽アルミ箔 リチウムイオン電池箔用スリッター2基目稼動（2011年7月）
SKコーポレーション買収（2011年4月）・スミケイテクノタイ稼動（2011年1Q）
住軽商昆山 板加工設備増設（2011年1Q）・上海営業拠点開設（2011年1Q）
北米缶材拠点(ARCO)取得（2011年7月～9月頃）

② セグメント別売上高・営業利益予想(連結)

(単位: 億円)

	10年度		11年度予想		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	1744	177	1687	156	△57	△21
伸銅品	450	3	466	12	16	9
加工品・関連事業	401	5	397	10	△4	5
調整	—	△29	—	△31	—	△2
合計	2595	156	2550	147	△45	△9

③連結損益予想

(単 位: 億円)

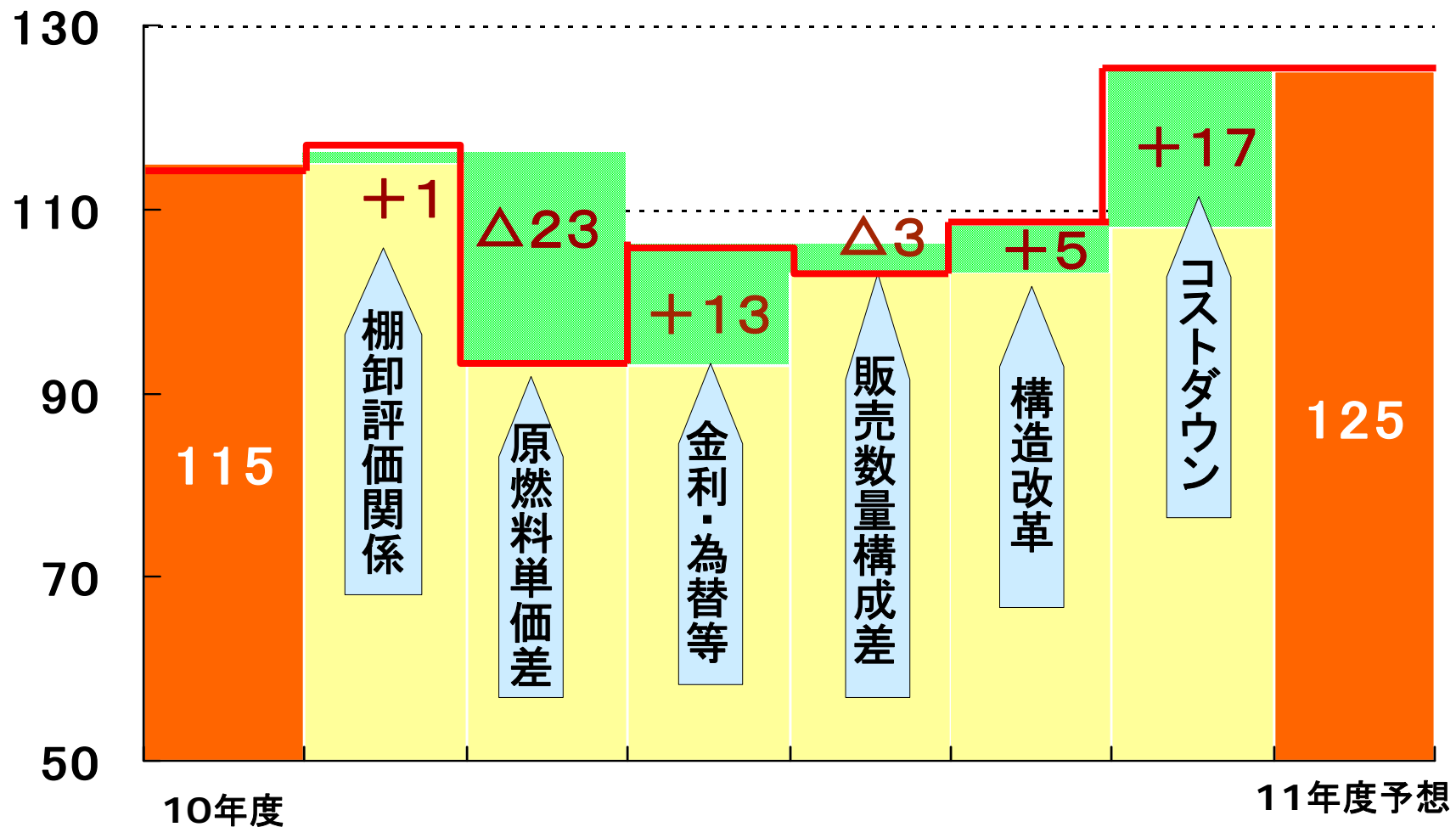
連結	10年度 実績	11年度 予想	増 減	伸率%
売 上 高	2595	2550	△45	△1.7
営 業 利 益	156	147	△9	△5.7
経 常 利 益	115	125	10	9.0
当 期 純 利 益	72	110	38	53.0
設 備 投 資	46	54	8	
減 価 償 却 費	95	95	0	

* 前提諸元

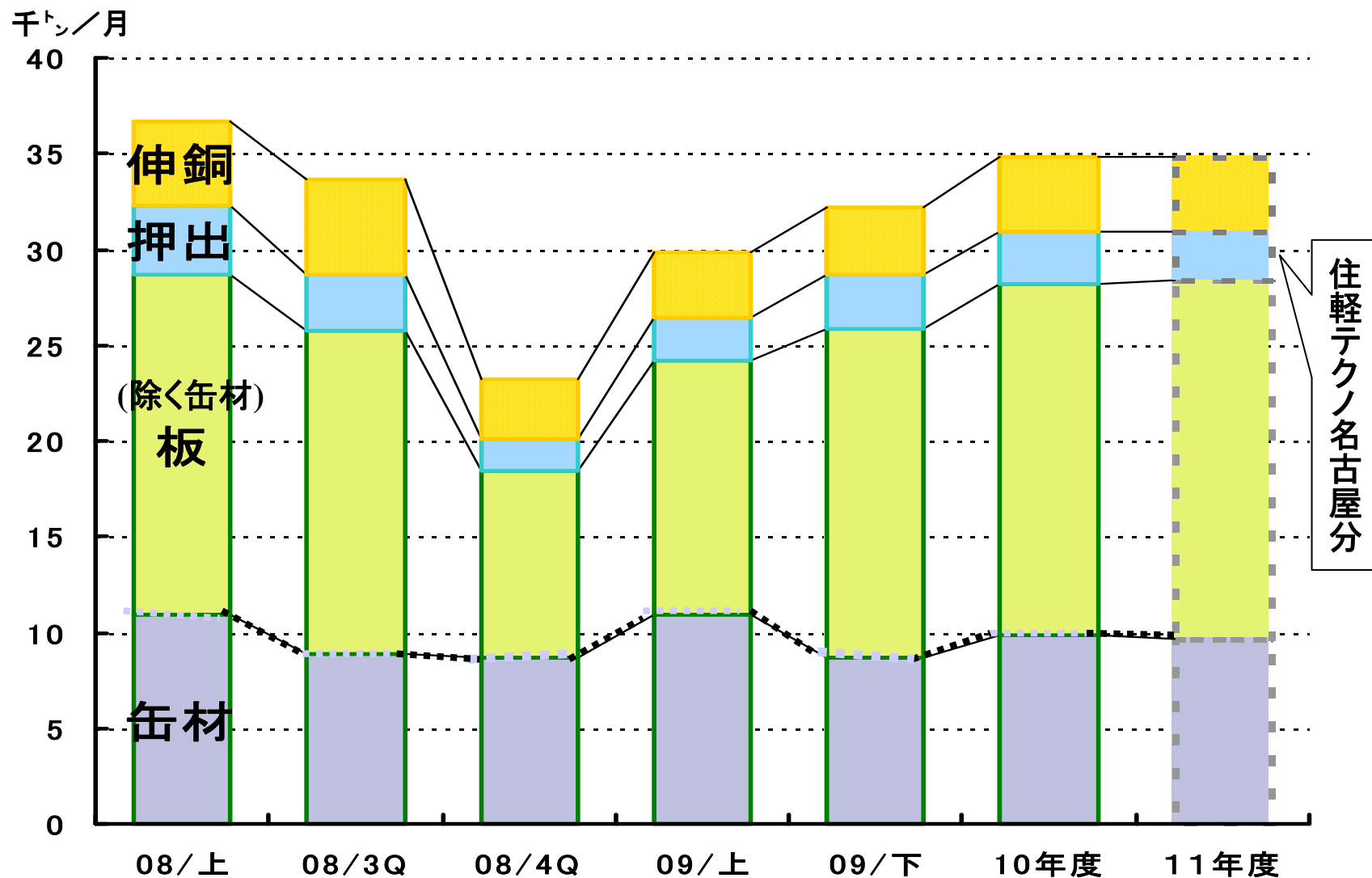
アルミ日経市況	銅建値	為替	原油通関価格
250円/Kg	830円/Kg	82円/\$	100\$/バレル

④連結経常損益分析

(億円) 115億円(10年度) → 125億円(11年度予想)



⑤ 品種別販売量推移(単体)



⑥セグメント別販売計画量（単体）

（単位：千ト、億円）

	10年度		11年度		増減	
	数量	金額	数量	金額	数量 伸率%	金額
アルミ板	338	1255	340	1275	2 0.6%	20
その他	—	246	—	238	—	△8
アルミ圧延品計	—	1501	—	1513	—	12
伸銅品	48	435	22	227	△26 △54.2%	△208
合計	—	1936	—	1740	—	△196

住軽テクノ名古屋	33	197	31	189
----------	----	-----	----	-----

伸銅新会社	—	—	24	250
-------	---	---	----	-----

⑦ 単体損益予想

(単位：億円)

	10年度 実績	11年度 予想	増 減	伸率%
売 上 高	1936	1740	△196	△10.1
営 業 利 益	113	96	△17	△15.4
経 常 利 益	83	83	△0	△0.2
当 期 純 利 益	64	94	30	48.0

設 備 投 資	27	36	9
減 価 償 却 費	73	64	△9

⑧単体純資産予想（2012年3月末）

（単 位： 億円）

	2011年 3月末		2012年 3月末予想
資 本 金	229		229
資本剰余金	33		—
利益剰余金	△109	2011年度 損益予想 + 33 + 94 =	18
株 主 資 本	153		247
評価換算差額等	96	※ 資本剰余金 取崩	96
純 資 産	249	※2011年6月 株主総会決議予定	343

2011年度配当予想 未定 ☆

☆ 繰越損失を解消できる見込みだが、震災影響等の変動要因があり「未定」とした

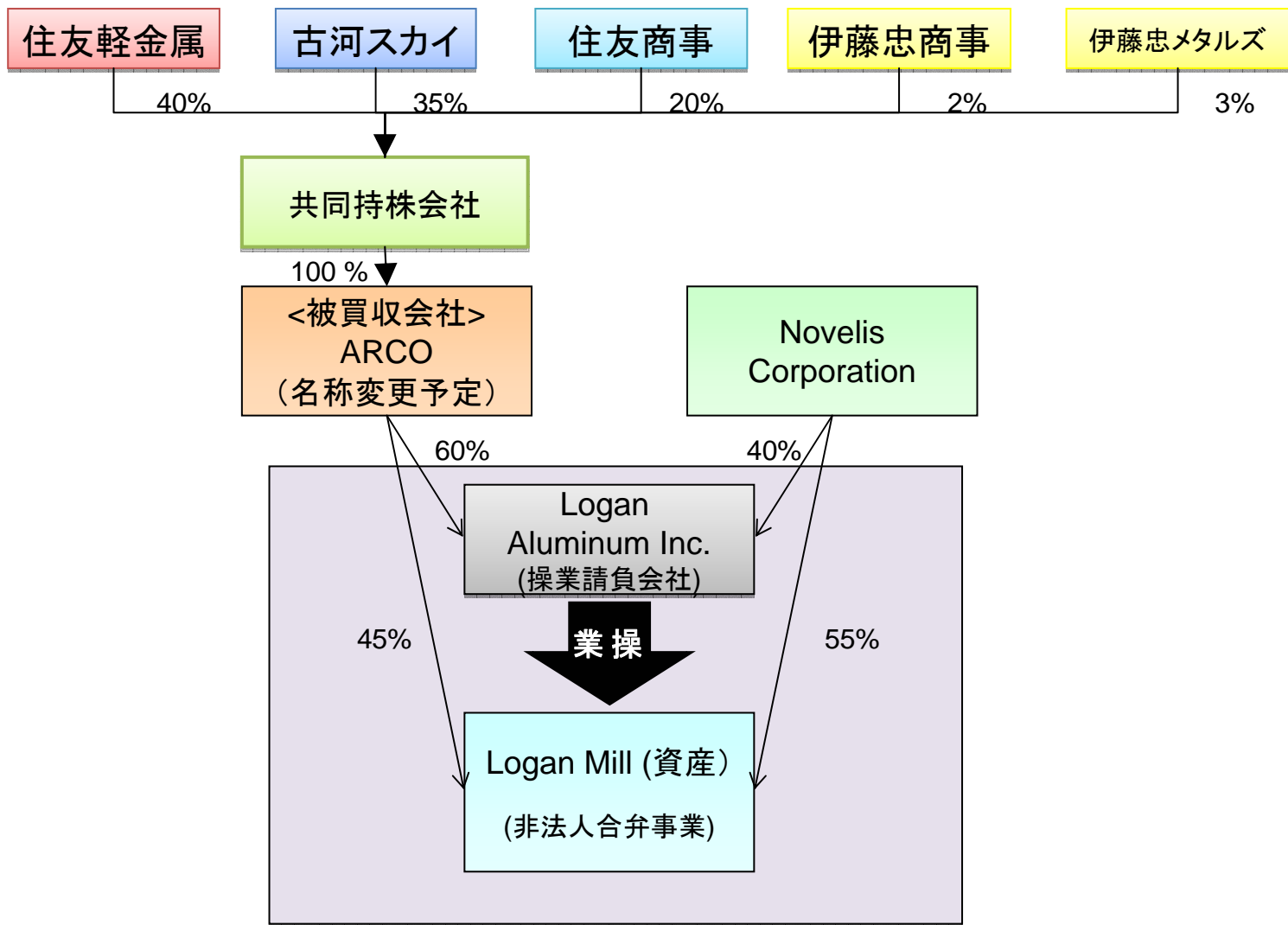


4. ARCO買收概要

①取引概要

本件買収コンソーシアム (出資比率)	住友軽金属工業株式会社 (40%) 古河スカイ株式会社 (35%) 住友商事株式会社 (20%) 伊藤忠商事株式会社 (2%) 伊藤忠メタルズ株式会社 (3%)
取得先	BP Company North America Inc. (ビーピーカンパニー ノースアメリカ) (英BP p.l.c. の100%間接子会社)
被買収会社	ARCO Aluminum Inc. (アールコアルミニウム、以下アールコ) ※クロージング後名称変更の予定 Tri-Arrows Aluminum Inc. (略称:TAA)
買収金額	6億8千万米ドル
今後のスケジュール	各国独禁法の申請等を実施し、7月～9月の間でのクロージングを目指す。

② 出資関係概略図



③ アーコ会社概要

所在地	Louisville, Kentucky (ケンタッキー州 ルイビル)
株 主	ビーピー カンパニー ノース アメリカが100%保有
従業員数	32名
事業内容	飲料缶用のアルミシート(以下、缶材)の製造・販売。 顧客は製缶メーカー。 生産量は約30万ト/年。北米缶材市場でのシェアは15%。
事業形態	<ul style="list-style-type: none">・ノベリス(世界最大の缶材メーカー)とアルミ圧延設備を共同所有し、操業請負会社(ローガンアルミニウム)に、その設備を貸与し、それを利用した加工を委託している。・アーコ、ノベリスがそれぞれローガンに原料を供給し、缶材用に加工されたコイル(製品)を引き取り、各社が独自に販売する形態を取っている。

4

Logan Aluminum Inc.



Russellville, KY



ARCO Aluminum Inc.
Louisville, KY

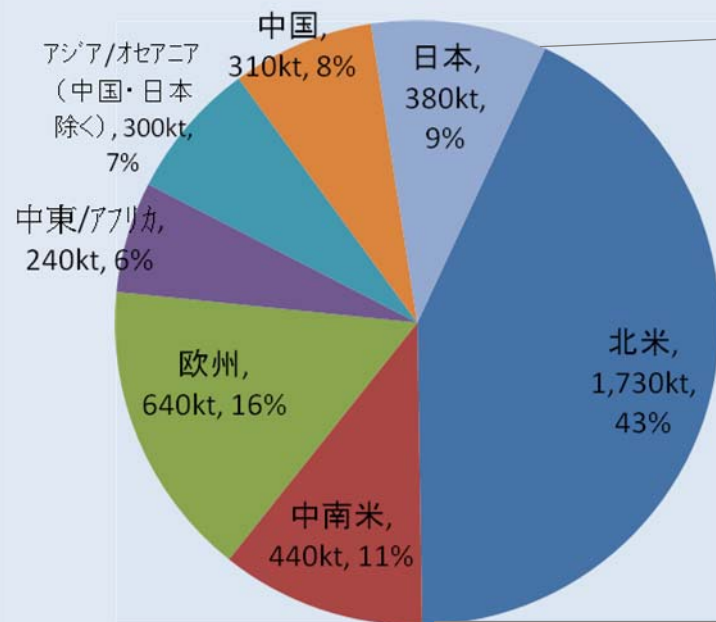
* 直線距離

⑤アーコ沿革

1981年	Atlantic Richfield (アトランティック・リッチフィールド) が ローガン工場建設開始 ※Atlantic Richfield Company : ARCO
1984年	ローガン工場操業開始
1985年	アトランティック・リッチフィールドがアルミ関連事業をAlcan (アルキャン、 現・ノベリス) へ売却。この際、独禁法の問題でローガン工場全体の売却 に関しては、米国当局の認可取得できず、ローガン工場はアトランティッ ク・リッチフィールド子会社(現・アーコ)とアルキャンの合併事業となった。
2000年	ビーピーがアトランティック・リッチフィールドを買収。 この結果、ローガン工場はビーピー(アーコ)とアルキャン(現・ノベリス)の 合併契約に基づく事業となった。

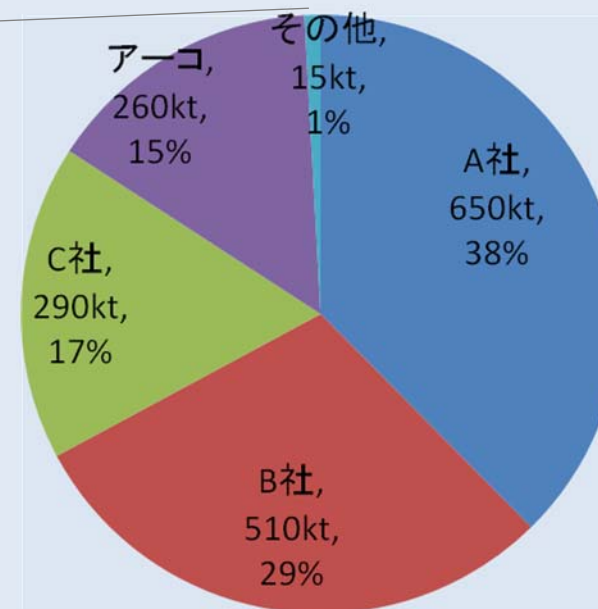
⑥ 北米缶材マーケット

世界アルミ缶材需要(2010年見通し)
4,040kt



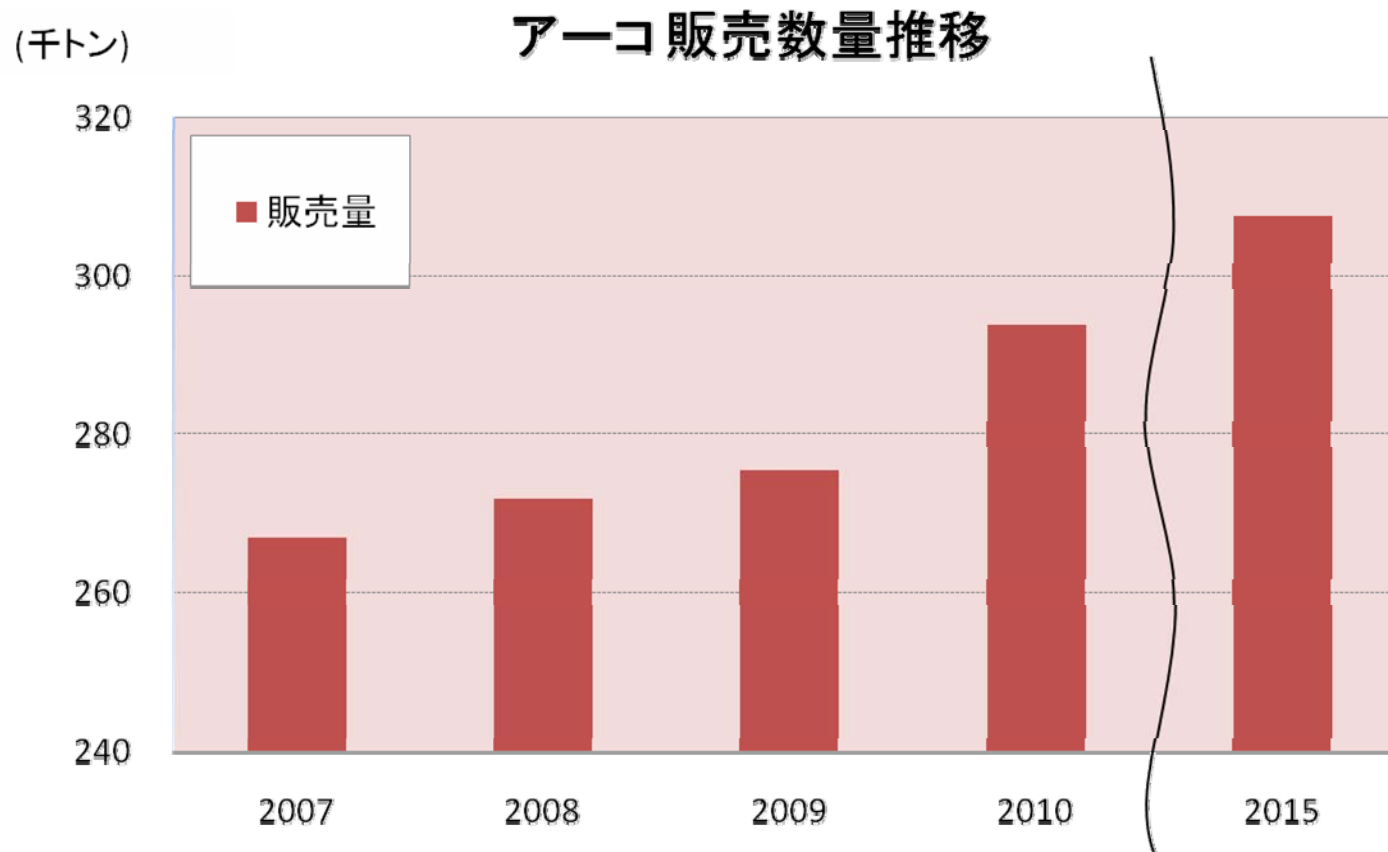
* 数値はコンソーシアム推定

北米アルミ缶材市場
市場シェア(2010年見通し)



* 数値はコンソーシアム推定

⑦ アーコ販売数量推移



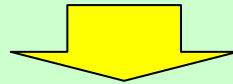
* 2015年の数値はコンソーシアム予測に基づく。

* 2010年の増加は、アーコのシェア拡大、及び需要が前年比プラスで推移したこと等による。

⑧ 本件の意義

【当社中期経営計画 SUMIKEI VISION 2012 (SV12)】

成長市場でグローバル供給体制構築



お客様にとっての『ベスト・グローバル・パートナー』

アーコの取得 = 世界最大級の缶材圧延工場ローガンへの参画

☆販売面のメリット

- ◎アルミ缶材の世界最大市場である北米での製造・販売
 - ◎今後大きな伸びが見込まれる中南米市場への販売拡大
- ⇒ **今後拡大する世界飲料缶市場に対して
グローバル供給体制構築の実現へ**

☆製造・技術面のメリット

- ◎日本・北米それぞれの長所を活用したシナジー効果



5. 第四次中期経営計画 の進捗状況 (SUMIKEI VISION 2012)

①環境認識

グローバルな成長市場の奪い合い

- 先進国需要の低迷
- 新興国需要の増大
(中国／東南アジア／インド／中東等)



新興国成長市場での競争激化

新規製品分野の成長

- 自動車軽量化／新エネルギー分野／
その他環境関連

ユーザー海外展開の スピードアップと方針変化

- 海外展開の更なるスピードアップ
- 輸出から現地生産へ
(円高等による輸出競争力低下)
- 『日本仕様での海外展開』から
『現地適合仕様での海外展開』へ
(ボリュームゾーンをターゲット)

海外メーカー、特に 中国／韓国軽圧メーカーの脅威の増大

- 最新設備による設備増強
- 生産技術／品質の着実な向上
- 中国政府の輸出奨励

②中長期的課題

『ありたい姿』

お客様にとっての **ベスト・グローバル・パートナー**

『実現のための中長期的課題』

1	技術開発力の優位性の維持・強化(既存分野/新規製品分野)
2	品質・納期・技術サービス等による海外メーカーとの差別化
3	海外展開ユーザーへのグローバルな供給体制構築 (ローカルメーカーにも供給可能な競争力を確保した供給体制)
4	上記を含めた持続的成長投資が可能な安定的収益構造と財務体質の実現

③ 基本方針

「守り」と「攻め」の両立へ

1 コスト構造改革と財務体質の早急な改善

- 加工品事業再編と押出素材/部材事業再編の計画通りの実施
- 伸銅事業強化策の検討と実施
- 有利子負債の更なる削減(ポストC-200活動による資産効率化)

2 成長戦略のビルトイン

- 既存重点事業ユニットの優位性の維持・強化
- 新規成長分野(自動車軽量化/新エネルギー分野/その他環境関連等)でのナンバーワン確保
- 海外展開ユーザーへのグローバル供給体制構築に対する積極的な取組
- 海外ビジネスチャンスに対する積極的な取組
- グループ経営資源の更なる有効活用策の検討と実施
- ケースによっては同業他社とのアライアンスも検討

3 技術開発力の更なる強化

- 狭義の技術開発力から、現場力・スタッフ力も含めた広義の技術開発力強化へ

4 コーポレートガバナンス、コンプライアンス体制の強化

5 復配の早期実現

④数値目標

単位: 億円

連結	2007年度 実績	2008年度 実績	2009年度 実績	2010年度 実績	2012年度 目標
売上高	3,276	2,782	2,335	2,595	2,600
営業利益	180	△77	52	156	190
経常利益	133	△143	30	115	150
ROA	5%	△2%	2%	5%	7%
有利子負債	1,966	2,058	1,792	1,652	1,450
純資産比率	15%	6%	9%	12%	20%
設備投資	82	92	57	46	250/3年間*

第4次中期計画
「SV12」開始

* 戦略投資含む(ポートフォリオの入替え)

⑤ コスト構造改革

- ◆ 加工品事業再編（2009年10月）
（新）日本アルミグループスタート
- ◆ 押出素材/部材事業再編（2010年4月）
住軽テクノグループスタート
- ◆ 伸銅事業の分社化（2011年10月予定）
- ◆ 大幅な在庫削減 等

⑥ 成長戦略のビルトイン

国内投資

- ◆ SKコーポレーション買収
- ◆ 新冷間圧延機設置
- ◆ チタン管設備増設
- ◆ 住軽アルミ箔 リチウムイオン電池箔用スリッター増設

海外投資

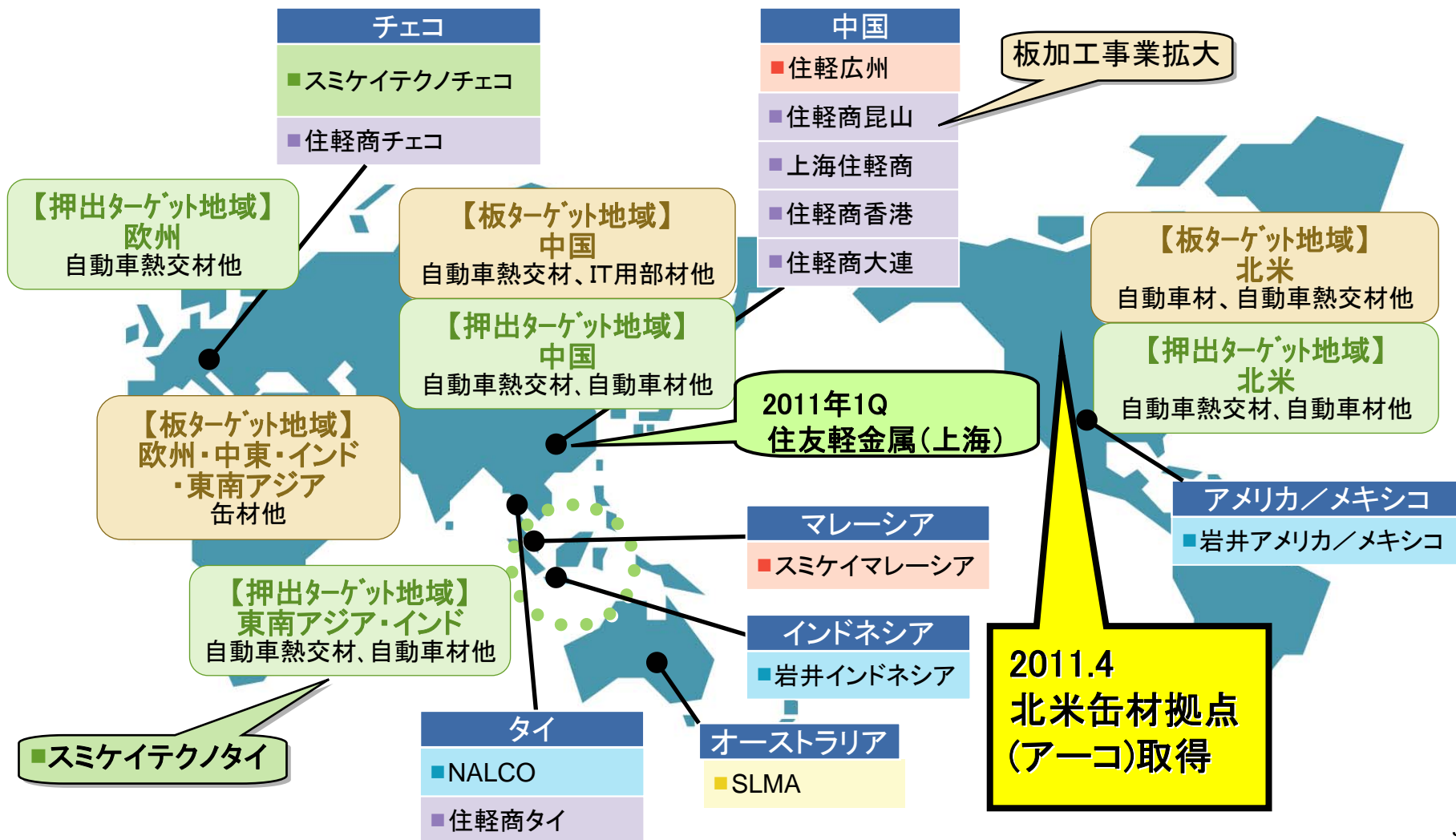
- ◆ 住軽商昆山
板加工設備増設 (2011年上期予定)
- ◆ スミケイテクノタイ稼動 (2011年1Q)
- ◆ 上海営業拠点開設 (2011年1Q)
- ◆ 北米缶材拠点
(ARCO)取得 (2011年7~9月予定)

⑦ 成長戦略のビルトイン

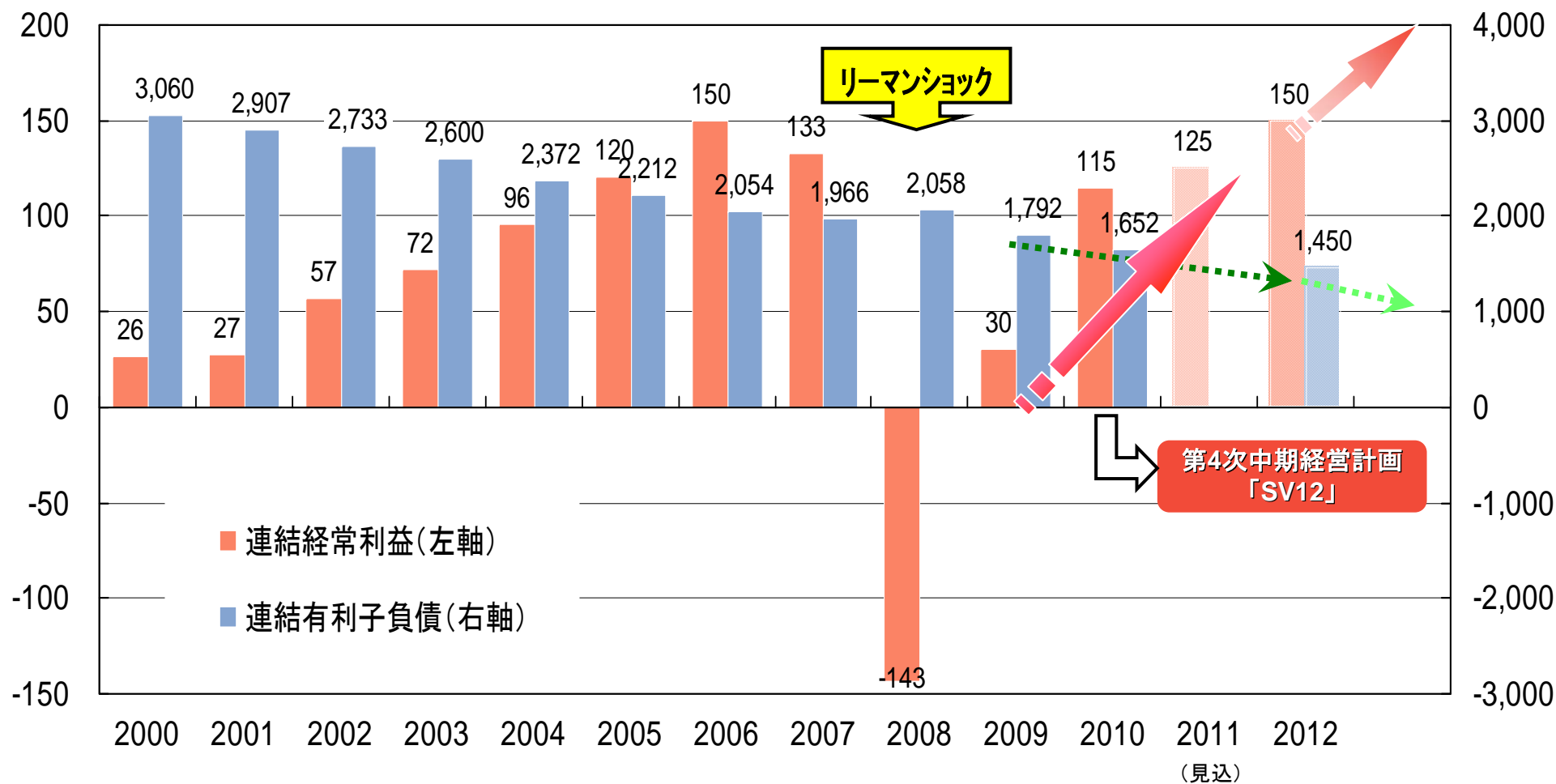
グローバル供給体制

事業部門

- 板部門
- 押出部門(住軽テクノグループ)
- 伸銅部門
- 加工部門
- 流通部門(住軽商事グループ)
- 製錬部門



⑧ 経常利益と有利子負債



第1次中期計画

第2次中期計画

第3次中期計画
「2010計画」

第4次中期計画
「SV12」

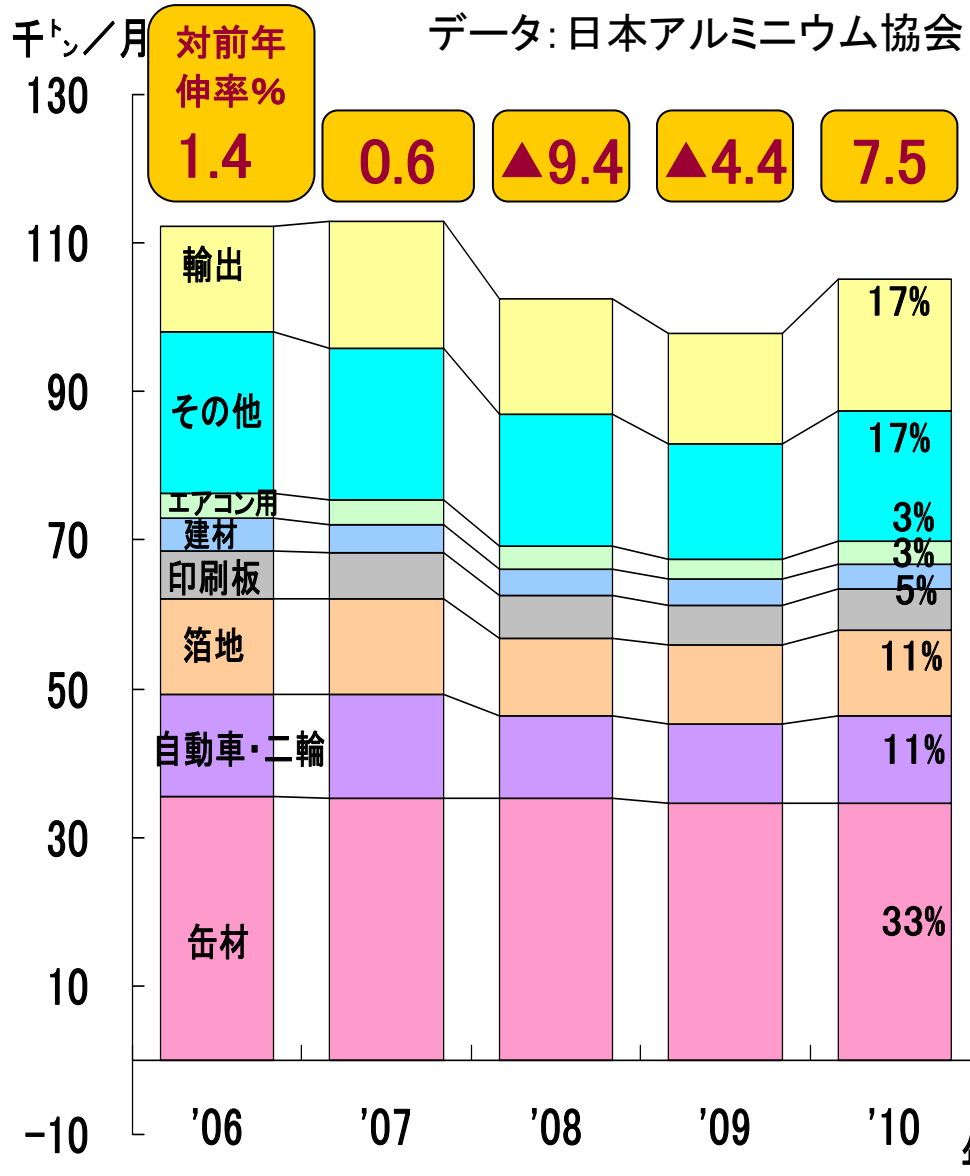


(参考資料)

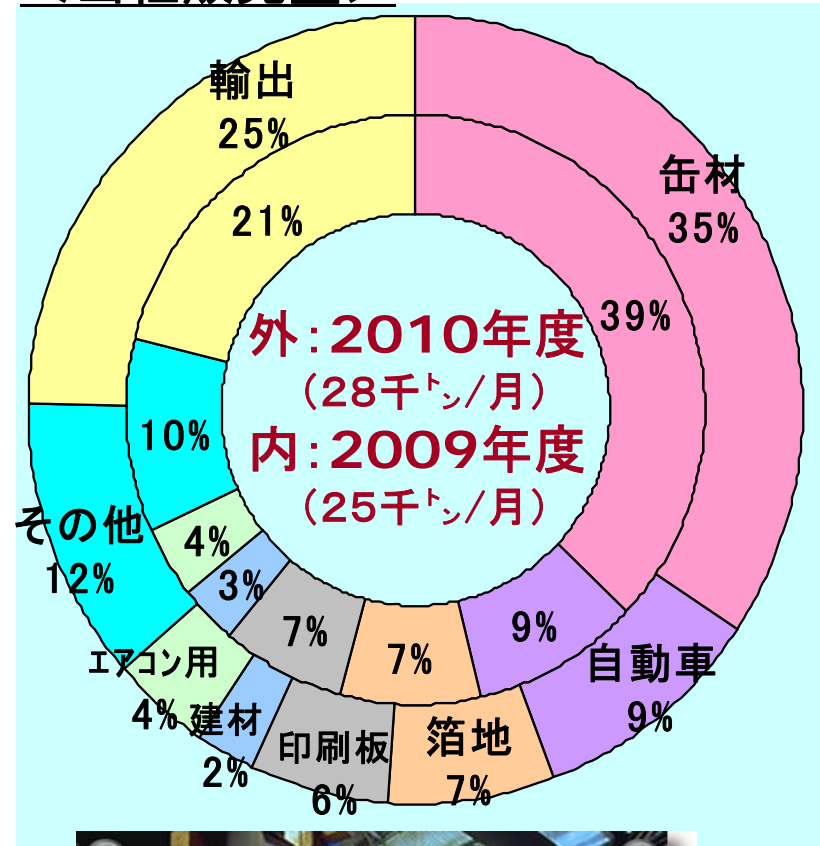
需要分野別販売概要

① アルミ板

<業界全体出荷量>

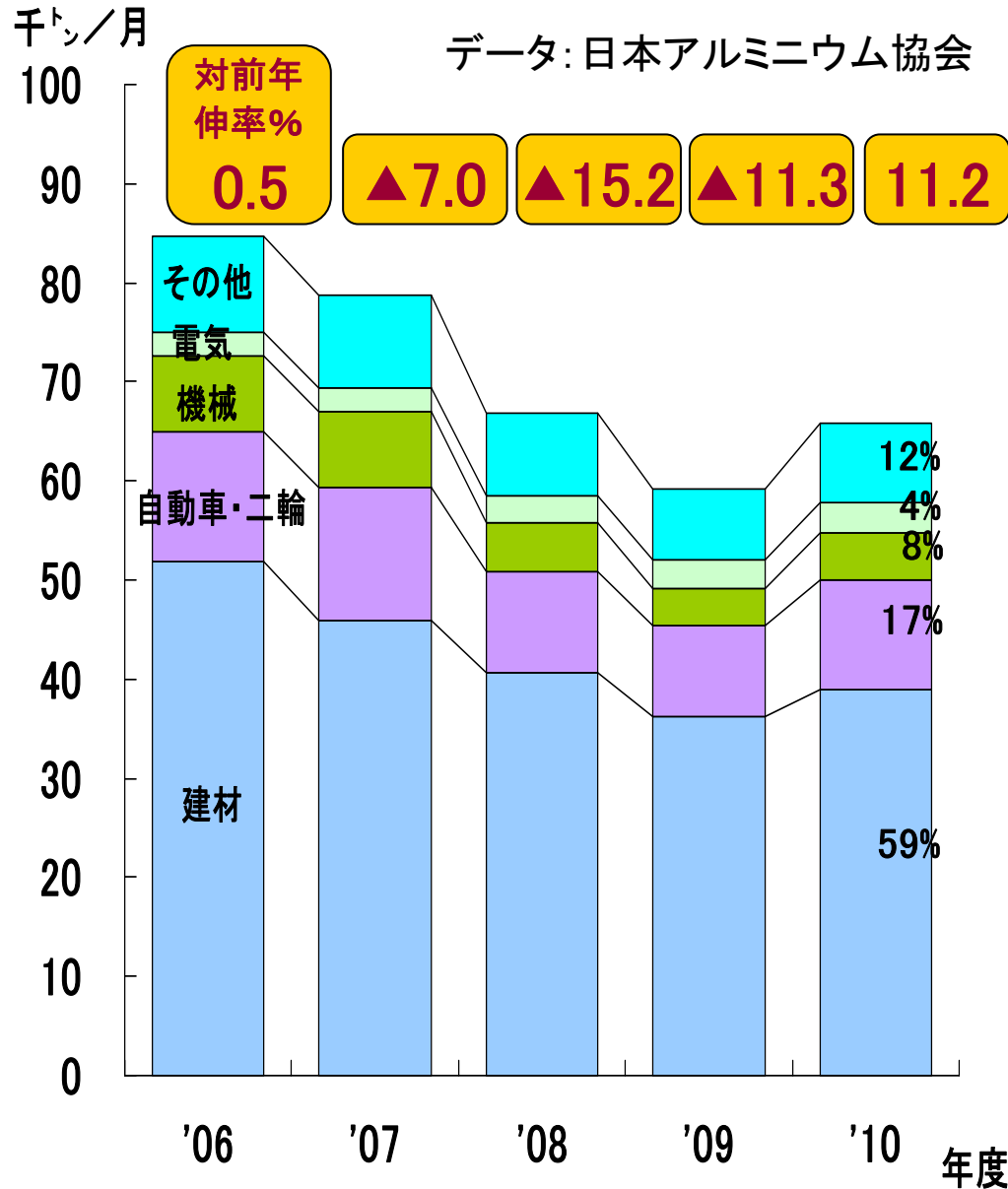


<当社販売量>

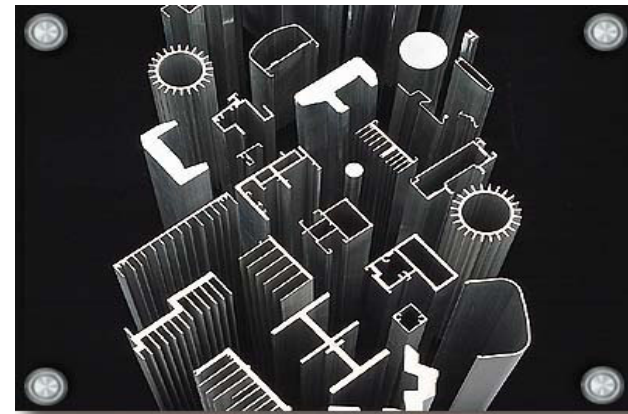
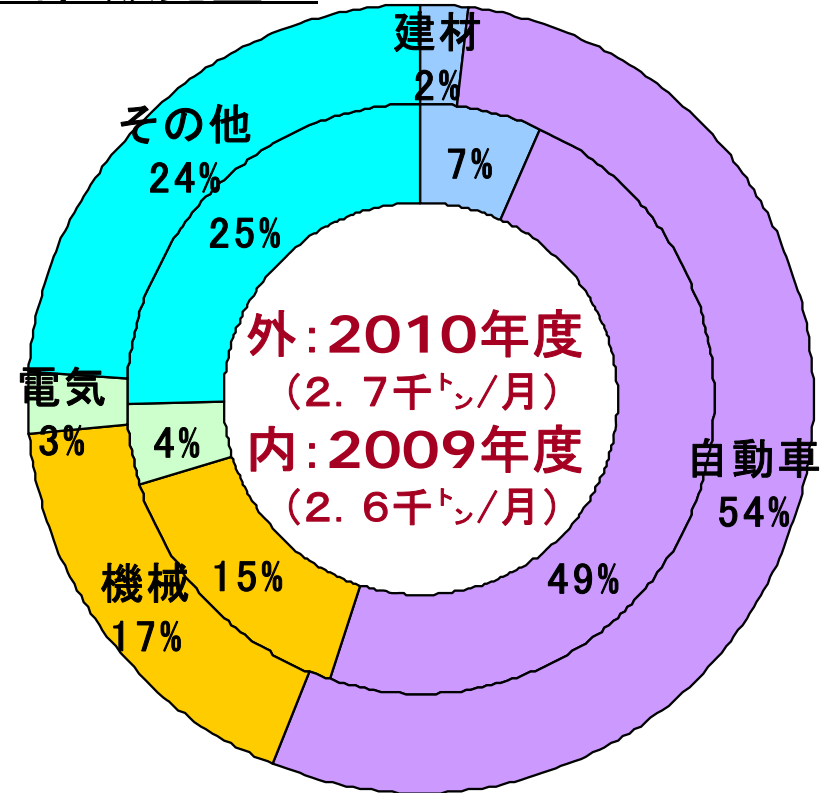


② アルミ押出

<業界全体出荷量>



<当社販売量>

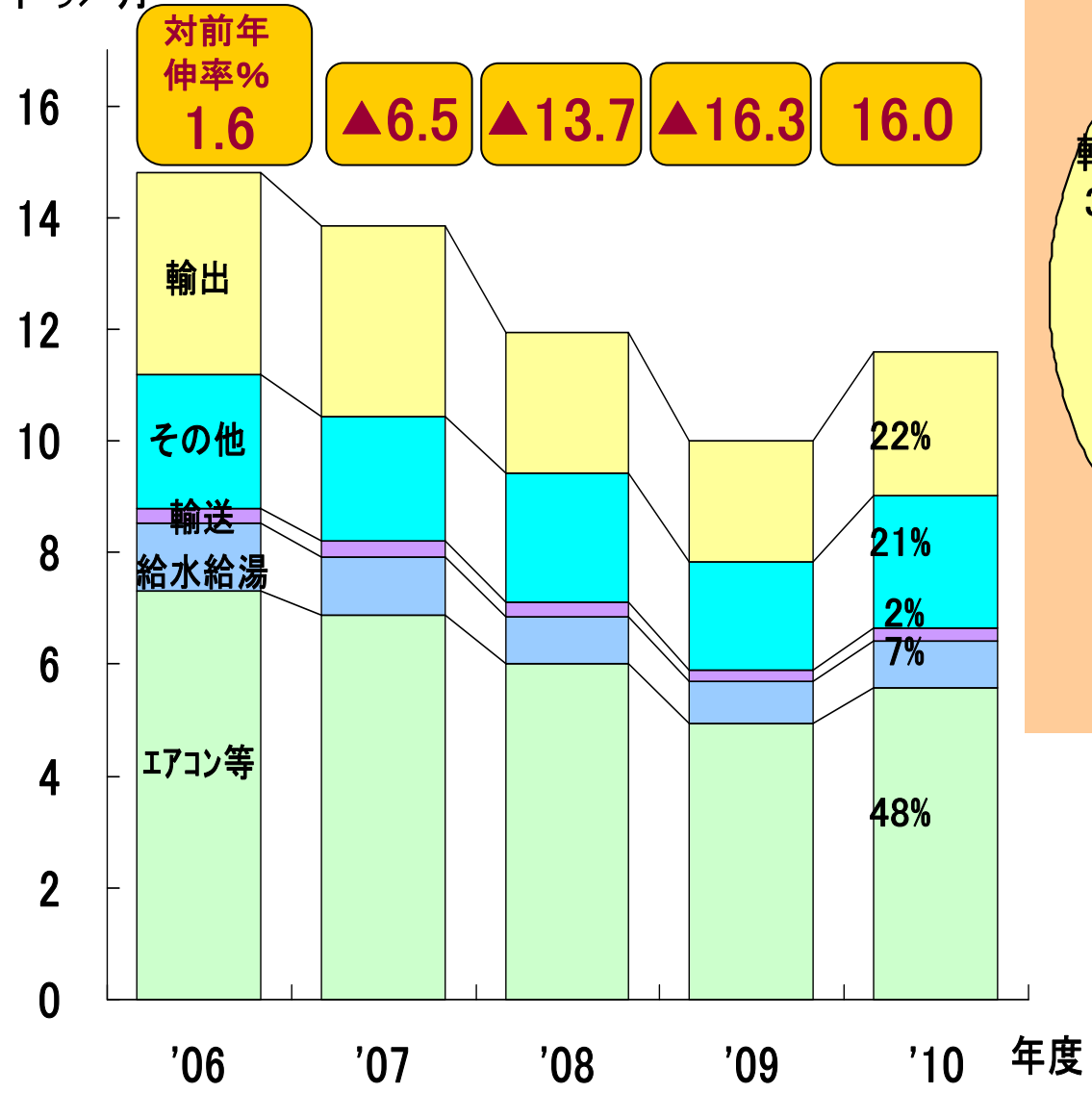


③ 銅管出荷量

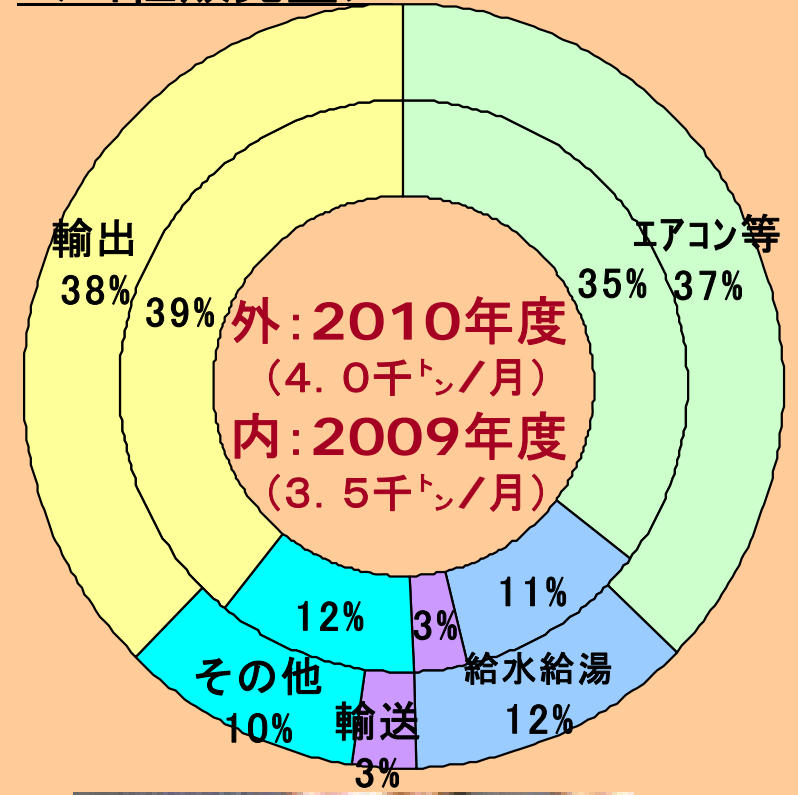
<業界全体出荷量>

データ: 日本伸銅協会
(※'10年度は11ヶ月分)

千トン/月



<当社販売量>



将来見通しに関する注意事項

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。本資料の中には、弊社の予想・確信・期待・意向及び戦略など、将来の予測に関する内容が含まれております。これらは、弊社が説明会の時点で入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて作成されており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまいう可能性があります。弊社は、将来予測に関する如何なる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。本資料に関する著作権・商標権その他全ての知的財産権は、当社に帰属します。